

地球温暖化防止活動推進員ステップアップ研修 「脱温暖化推進員フォーラム2016」を開催

学び・資源・地域を活かす事例を紹介



約100人がフォーラムに参加(上)、参加者同士で交流しながら情報やノウハウを習得「資源の部屋」(右)

現在、300人余りの地球温暖化防止活動推進員と26の地球温暖化対策地域協議会(以下、TEAM)、26の公衆衛生推進協議会が、県内各地で温暖化防止活動を展開しています。脱温暖化センターひろしまは、互いの活動や課題、情報等の共有および交流を通じて、温暖化防止活動の輪を広めようと、2月10日にサテライトキャンパスひろしまで「脱温暖化推進員フォーラム2016」を開催。各地から約100人が参加しました。

午前中は、「COP21パリ協定」の概要や成果等から温暖化をめぐる情勢を確認した後、広島県環境政策課の岡田誠司参事から「広島県の温暖化対策についてお話しいただきまし

実施する行事等への視察交流を通じて、事業運営力の向上と活性化を図る「TEAM活動視察交流事業」の報告を行いました。また、平成27年度地球温暖化防止活動環境大臣賞を受賞した「大崎上島けんこう文化の島づくり協議会」が、喜びや今後の意気込みなど語りました。お昼の前に、「平成27年度家庭の省エネ成功事例募集事業」の選



TEAM自慢の取り組みを発表「地域の部屋」(上)、自慢の学習プログラムを紹介し合った「学びの部屋」(下)

地球温暖化防止活動推進員養成

新規養成研修～11件の実践活動に挑戦～

脱温暖化センターひろしまの「平成27年度地球温暖化防止活動推進員新規養成研修」を受講した11組18人が、12月11日、地球温暖化防止活動推進員の委嘱を受けました。

研修は、前期(7/24)・中期(9/2)・後期(12/11)の3回に分けて実施。地球温暖化の基礎知識や取り組み事例を学んだ後、企画づくりの手法を学習して実践する企画を考案し、約4カ月間の実践期間の結果を後期に報告しました。

実践活動は、次表のとおり、節



委嘱状授与式

電活動や環境家計簿、ごみ減量、エコドライブ、普及啓発手法の改良などバラエティに富み、今後につなげていこうと意欲満々です。

(脱温暖化センターひろしま)

【活動名(取り組んだ活動)】【実践団体】の順に掲載

- ① 家庭の省エネ活動推進運動(ゴミ分別ゲームなどで啓発)
【くれ環境市民の会】
- ② 地球温暖化防止に関する情報提供(活動チラシの作成配布)
【大崎上島けんこう文化の島づくり協議会】
- ③ 環境を守る省エネ生活推進運動(イベントで啓発)
【町づくり脱温暖化やすら】
- ④ 不要車載物撲滅による燃料削減(エコドライブの検証)
【かんきょう会議浮城】
- ⑤ 家庭からできる地球温暖化対策(地域学習会)
【熊野町公衆衛生推進協議会】
- ⑥ STOP 温暖化 坂町(節電と検証)【坂町公衆衛生推進協議会】
- ⑦ 生ごみの減量化作戦(ボカシ活用事業の導入調査)
【大竹市公衆衛生推進協議会】
- ⑧ 待機電力調査を活かせるエコチェック事業(家電調査と啓発)
【福山市公衆衛生推進協議会】
- ⑨ 対策につながるエコチェックの改善(待機電力調査と学習会)
【福山市公衆衛生推進協議会】
- ⑩ 待機電力調査を活かせるエコチェック事業(待機電力削減活動)
【福山市公衆衛生推進協議会】
- ⑪ エコドライブ実践による効果の検証(エコドライブの検証)
【脱温暖化センターひろしま】

午後からは、体験交流会「交流しよう!共有しよう!挑戦しよう!」と題し、「学びの習活動」資源(資源物の有効活用)「地域の部屋」の3テーマで部屋を分け、各部屋で3TEAMがテーマにまつわる活動事例を発表。参加者は興味のある部屋で事例を聞き、発表TEAMとの意見交換を通じて、さまざまな情報やノウハウを習得しました。

参加者からは、「参考になる事例を聞き、刺激を受けた」「学んだことを今後の活動に活かせるようメンバーと相談したい」などの声の間、今後の事業活性化につながるヒントが得られたようです。

今後、互いのレベルアップや交流を通じて、温暖化防止活動をより一層推進していきます。(脱温暖化センターひろしま)

また、個々の削減量はわずかですが、照明のLED化も確実に家庭の省エネにつながります。まずは、台所やリビングなど、人が集まり、長時間利用する部屋からご検討ください。合わせて、家庭内で省エネ意識を高め、継続していくことも重要です。



成功事例表彰式

平成27年度、脱温暖化センターひろしまは、家庭から排出される温室効果ガスの排出抑制に向け、家の改築や家電の買い替え、日々の省エネ取り組みなど、家庭の省エネ成功事例を広く募集し、住民活動を活性化させる普及啓発事業に役立てるために、「家庭の省エネ成功事例募集事業」を実施しました。

この事業は、平成24年から27年10月を対象期間とし、電気やガスの使用量の削減事例とその成果(使用量の伝票)を募集するというものです。

1月13日、脱温暖化センターひろしまの運営委員14人の中から選出された3人の選考委員が、「実効性」「地域性」「継続性」「展開性」の4つの視点で応募内容の評価し、金賞1件、銀賞2件、銅賞5件を決定しました。受賞者は2月10日にサテライトキャンパスひろしま(広島市中区)で開催された脱温暖化推進員フォーラム2016で表彰しました。

特に省エネ効果の高い取り組みとして、機器の買い替えや使用数の削減が挙げられます。冷蔵庫の場合は、「必要なサイズや能力を見極める」「古い冷蔵庫をいづまでも倉庫代わりに利用しない」「複数あるものを一台に統合する」

脱温暖化センターひろしまでは引き続き、家庭でできる省エネ事例や耐久家電の買い替えのポイントなど県民の皆さまがより省エネに取り組めるよう、さまざまな調査・研究事業を展開してまいります。(脱温暖化センターひろしま)

「家庭の省エネ成功事例募集事業」報告

誰でも・どこでもできる活動の普及へ